

2010年6月25日（金）開催

第29期 定時株主総会後

会社説明会 発表内容（代表取締役 松本守祥）

株主の皆さまへ

当期すなわち2011年3月期は、次の3点を経営上の重点施策として位置づけ全社一丸となり、早期の黒字化を目指して参ります。

重点施策の一つ目は「アクティブ・ポートフォリオ・マネジメント」。最大の成果をあげるために、重点投資先企業を選別し、これまで以上にあらゆる支援を多面的に行ってまいります。投資先企業の価値向上がひいてはJAICの価値向上に繋がっていくという原点に立ち戻り、改めて徹底していこうということです。

次に「アジア戦略の強化」。これは、JAIC自身が単にアジアでの投資資産を積み上げるということに限らず、もっと踏み込んで日本企業のアジア進出支援と、アジア企業の日本進出支援を双方向で行うことを目指します。特に今期戦略的に資源を投入するのは中国地域における事業です。

そして最後に、「長期投資資金（ファンド）の調達」。金融法人や事業法人との関係を強化すべく、リレーションシップマネジメント（RM）専門部隊を増強し、投資家とのコミュニケーションを積極的に図っていきます。投資家に認められるファンド組成のためには、投資家に訴える魅力的な投資資産、そして充実した投資候補先リストがあることが必要とされます。従って、投資家とのコミュニケーションの強化とともに、厳選した投資の実行にも、引き続き注力していきます。

当社の収益の源はファンドの管理報酬と、投資先が高い評価を受けて売却されたときのキャピタルゲイン。3つの施策によってその双方を強化していきます。

事業環境と投資機会について。

第1四半期に入ってからマクロ環境をみますと、プライベートエクイティにとっては追い風を認識しています。企業セクターにおいて、前期の業績回復の要因が主にコストカットにあったのに比べて、当期においては収益の増加が見られるケースが多くなっております。結果（この2年で積み増したキャッシュを利用した）企業買収の動きがグローバルに活発になっています。我々も、投資に一層前向きになれる条件が揃ってきました。

この環境下での我々の事業機会をお話します。たとえば我々のファンドへ出資いただいている先には、戦略的投資家、すなわちベンチャー企業への出資によって新規事業や技術革新のヒントを得ようとしている事業会社などがあります。彼らの視線は新しい市場であるアジア、とりわけ中国やインドネシア、ベトナムに向いています。また、機関投資家もアジアへの国際分散投資、環境や代替エネルギーに関連する投資ポートフォリオの構築に高い関心を払うようになってまいりました。

最後にJAICの競争優位は何か？についてです。

まず、JAICには他の投資会社にはない独自の案件開発能力があります。これは独自のボトムアップアプローチによる、地道で、蓄積のある投資活動に基づきます。これは日本を核としてアジアに及びますが、アジアの事業者に対して日本の独自情報を提供できる価値は大きいと考えています。

我々は中国・東南アジア地域に多くの投資実績があります。アジアの有力金融機関とのネットワーク・パートナーシップを今後も維持強化してまいります。

また人材に関してですが、JAICのファンドマネージャーのうち半分は10年以上のPEの投資経験を持っています。こうしたプロフェッショナルの人材プールを国内外に配し、国内と海外の人員がひとつのチームを組織することで、グローバルにしてローカルな投資活動を推進してまいります。合わせて社外のエキスパートとプロジェクトごとに協業してまいります。

とはいえ企業の収益改善は生産性の向上によるものもあって、失業率は未だに（全世界で）高水準にあると言え、長期的にはただ楽観視できる経済環境ではありません。各投資本部が、環境に応じた柔軟な投資戦略をとっていきます。

優れた経営チームはエクイティ・パートナーを選ぶ時代となりました。世界中で同業のPE投資会社の淘汰が進む中、我々は投資家の皆さまからも経営チームからも選ばれる、クロスボーダーなプレーヤーを目指してまいります。

株主の皆さまよりお寄せいただいている信頼に心より感謝いたしますとともに、今後もその信頼を守り続けるため役職員一同で尽力してまいります。

日本アジア投資株式会社

I Rに関するお問合せ先：取締役 下村哲朗

経営管理部

I Rに関するお問合せアドレス：ir@jaic-vc.co.jp